



文教協会50年を振り返る¹⁰

平成26年度 50周年記念事業

文教協会事務局

50周年記念事業の紹介

50周年を記念して、H26年度に50周年記念事業を行いました。事業内容は、50周年記念式典、「ふるさと大垣科」テキストの作成、「語り継ぎたいふるさと大垣塾」の実施、の3つです。

[大垣市文教協会設立 50周年記念式典]

平成27年 1月17日(土)、大垣市文教協会設立50周年記念式典が大垣市文化会館文化ホールにて開催されました。西部中学校の吹奏楽部の生徒の皆さんによる素晴らしい演奏をオープニングに、大垣市長小川敏様、大垣市議会議長 高橋滋様、岐阜県教育委員会教育長 松川禮子様にご臨席いただき、式典には、サテライト会場を含めて市内幼小中学校の教職員、文教協会役員、地域関係者、合わせて750名以上が参加しました。

第1部 式典

○小川 信也 文教協会会長より

先人の功績を積み重ねて、50周年を迎えることができた。

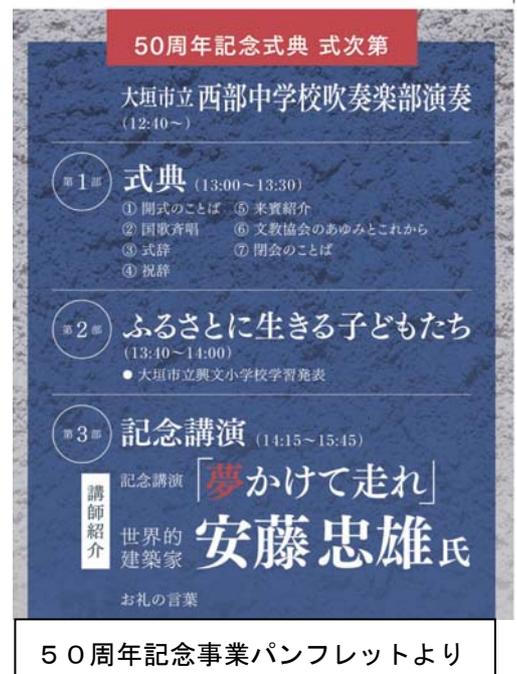
50年の節目に、文教協会として、

- ・ふるさと大垣科のテキストの作成
- ・今後のご示唆をいただくための安藤忠雄氏による記念講演
- ・私立学校の皆様の文教協会加入のための規約改正を行った。

子どもたちの未来、市の発展のために一層の理解と協力をお願いしたい。

○岐阜県教育委員会教育長 松川禮子様のご祝辞より

- ・グローバル人材の育成と「ふるさと教育」を表裏一体に考えて推進すること
 - ・文教協会の協力のもとで一体となって教材を作成すること
- 他郡市ではなかなかみられないことであるとお認めいただきました。



第2部 ふるさとに生きる子どもたち

興文小学校の6年生の児童12名による、「ふるさと興文」（総合的な学習の時間）で学んできたことの発表がありました。これまでの学びを生かして、地域の方に「ふるさと興文」の素晴らしさを伝えようと発信することにも取り組んでいることや、実際に発信したプレゼンテーションによる発表がありました。

発表後半では、授業形式でゲストティーチャーを招き、先人「子安峻」について学びました。大垣市立図書館司書の方に子安峻が刊行した貴重書となっている『英和辞彙』を見せていただきました。子安峻が創刊した読売新聞の岐阜支局長様には、創刊時の苦労や工夫や、当時の道具と比べて現在の印刷技術の発達について、本物に触れながら教えていただきました。

「読む人にわかりやすく伝えたい」といった今も昔も変わらない考え方に気付き、児童からは「自分もみんなのことを考えて、役立つ人になりたい。」といった発言が聞かれました。



第3部 記念講演「夢かけて走れ」 建築家 安藤 忠雄氏

サテライト会場にも多くの会員の皆様に参会いただきました。

安藤先生のご講演から、あきらめないことや一人ひとりが決断できる人となることの大切さを学びました。より一層「文教協会」を盛り上げようと機運を高めることができました。

【「ふるさと大垣科」テキスト作成】

平成27年度から市内全小中学校において始まる「ふるさと大垣科」のテキストを作成しました。テキストは3部に分かれており、第1、2部で大垣の自然、歴史、文化、産業、第3部で俳句、文学を学ぶ構成となっています。

具体的には、

○第1、2部は小学3年生から中学3年生にかけて使用し、校区の特色・名物、水辺の生き物、水の都としての大垣、大垣の歴史遺産、大垣の企業などについて学びます。

○第3部は小学1年生から中学3年生まで使用します。ことば遊びから始めて、学年をおって、親しみ楽しみながら俳句が学べる仕組みになっています。





編集委員は国語、社会、理科、美術、音楽の教員と、図書館、郷土館、大垣城、化石館、奥の細道むすびの地記念館の職員、まちづくり市民活動の方、岐阜大学教授が務めました。ふるさと大垣を理解し、誇りや愛着をもち、大垣のすばらしさを語ることができる子どもたちの育成を目指しています。

【語り継ぎたいふるさと大垣塾】

ふるさとの文化財について現地に赴いて学ぶ全5回のツアーと最終回のキッズ大垣検定からなる「語り継ぎたいふるさと大垣塾」を実施しました。対象者は、ふるさと大垣に興味をもち、もっと詳しく調べたい、自分で見聞きしたいと思っている小学5、6年生と保護者です。平成25年度と26年度の2期、開催しました。